

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年2月14日
【四半期会計期間】	第16期第3四半期（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）
【会社名】	株式会社リアルビジョン
【英訳名】	RealVision Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 杉山 尚志
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目1番4号
【電話番号】	(045)473-7331(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 三須 貴夫
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目1番4号
【電話番号】	(045)473-7331(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 三須 貴夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第3四半期連結 累計期間	第16期 第3四半期連結 累計期間	第15期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 12月31日	自平成23年 4月1日 至平成23年 12月31日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(千円)	1,466,063	117,851	2,505,172
経常損失( ) (千円)	439,103	203,391	518,088
四半期(当期)純損失( ) (千円)	302,237	204,455	414,037
四半期包括利益又は包括利益(千円)	404,000	238,760	538,738
純資産額(千円)	1,342,185	885,498	1,124,259
総資産額(千円)	1,731,619	950,320	1,262,658
1株当たり四半期(当期)純損失 ( )金額(円)	7,338.35	4,964.21	10,052.87
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	65.7	93.2	89.0

回次	第15期 第3四半期連結 会計期間	第16期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 10月1日 至平成22年 12月31日	自平成23年 10月1日 至平成23年 12月31日
1株当たり四半期純損失( )金額 (円)	2,716.97	624.86

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第15期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間、当社グループ（当社及び当社の連結子会社）のおかれましては経営環境につき、世界経済は、欧州の債務問題による金融不安の拡大、米国の景気回復の懸念、さらに、中国をはじめとする新興国の成長の鈍化等により、先行き不透明な状況が続いております。国内経済は、東日本大震災による落ち込みから緩やかに回復しつつあるものの、タイで発生した洪水による生産活動の低下、歴史的な円高傾向の長期化及び厳しい雇用情勢等、予断を許さない状況にあります。

エレクトロニクス業界につきましては、スマートフォン及びタブレットPCの世界的大ヒットもあり好調な分野がある一方、厳しい競争で価格の下落が止まらない液晶テレビ等の分野もあり、まだら模様に移っております。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間の業績は、前連結会計年度第4四半期に韓国WIDE Corp.（以下、WIDE社）が当社連結子会社から持分法適用関連会社に異動したこと及び円高の影響による部材関連事業の不振等により、売上高は117,851千円（前年同期比92.0%減）となりましたが、販売費及び一般管理費の削減に努め（同71.4%減）、営業損失は166,838千円（前年同期営業損失402,421千円）、経常損失は203,391千円（前年同期経常損失439,103千円）、四半期純損失は204,455千円（前年同期四半期純損失302,237千円）と前年同期と比較し損失は大幅に減少いたしました。

なお、WIDE社の当第3四半期の業績（韓国会計基準）は、売上高について医用及び航空管制向け液晶モニターの販売が順調で前年同期比34.5%の増収となり、通期業績は前期に続き黒字を確保する見通しです。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

#### 1) グラフィックス関連

産業用グラフィックス事業は、国内の医用向け画像システム及び航空管制向けグラフィックスボードの販売につき、東日本大震災の影響等により低調に移りましたが、WIDE社製のマンモグラフィ用10メガ高精細モニタを国内で初めて宮城県仙台市地域の中核病院である東北労災病院に販売いたしました。また、次期以降の事業拡大の為、医用向けグラフィックスボードの新製品「UMDシリーズ」のサンプル出荷を行う一方、医療事業の拡大を図る国際的な大手優良メーカーと共同開発も進めております。さらに、パートナー企業と協力し、当社独自技術のFVT(注)を搭載した医療専用PCの試作機の開発を行い、当該試作機による医療ベンダーへのマーケティング活動を開始いたしました。アミューズメント事業は、遊技機器メーカーへの営業を進め、開発のサポートを継続的に行っております。また、「JIGENシリーズ及びRacroix」について、POSシステムの表示機器等の新規用途の開拓を推進しております。

この結果、売上高82,975千円（前年同期比93.1%減）、セグメント損失56,978千円（前年同期はセグメント損失283,194千円）となりました。

#### 2) 部材関連

急激な円高により日本から部材関連を輸入するのがコスト高となり、顧客が輸入先を日本から他国に変更した為、売上高34,876千円（前年同期比86.9%減）、セグメント利益320千円（同92.9%減）となりました。

(注)FVT【ファインビューテクノロジー】

当社が独自開発した、デジタル医用画像を汎用モニタ上で実現するための技術。DICOMキャリブレーションや、輝度均一化制御、モニタ管理機能などを、汎用モニタで実現することができる。

#### (2)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3)研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、82,004千円であります。  
なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4)生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、グラフィックス関連の生産、受注及び販売実績が著しく減少しました。  
これは、前連結会計年度第4四半期にWIDE社が当社連結子会社から持分法適用関連会社に異動したことによるものであります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	161,950
計	161,950

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年12月31日現在)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月14日現在)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	41,187	41,187	東京証券取引所 (マザーズ)	当社は単元株制度は採用しておりません。
計	41,187	41,187	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高(千円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日	-	41,187	-	3,022,725	-	3,489,224

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 41,186	41,186	同上
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	41,187	-	-
総株主の議決権	-	41,186	-

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社リアルビジョン	横浜市港北区新横浜 3-1-4	1	-	1	0.0
計	-	1	-	1	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人シドーによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	650,800	556,838
受取手形及び売掛金	65,337	66,076
有価証券	50,065	-
商品及び製品	49,227	45,658
仕掛品	7,041	4,873
原材料及び貯蔵品	6,765	19,033
その他	4,784	1,428
貸倒引当金	6,444	6,444
流動資産合計	827,577	687,463
固定資産		
有形固定資産	20,065	18,083
無形固定資産		
その他	2,884	2,189
無形固定資産合計	2,884	2,189
投資その他の資産		
投資有価証券	54,746	39,676
関係会社株式	338,530	297,174
関係会社社債	166,540	53,417
その他	10,621	10,621
投資損失引当金	158,306	158,306
投資その他の資産合計	412,131	242,584
固定資産合計	435,081	262,857
資産合計	1,262,658	950,320
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	47,426	9,581
賞与引当金	15,250	7,095
その他	50,411	27,705
流動負債合計	113,088	44,383
固定負債		
退職給付引当金	17,800	12,593
資産除去債務	5,721	3,760
その他	1,789	4,083
固定負債合計	25,310	20,438
負債合計	138,399	64,821

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	3,022,725	3,022,725
資本剰余金	3,489,224	3,489,224
利益剰余金	5,287,319	5,491,774
自己株式	185	185
<b>株主資本合計</b>	<b>1,224,444</b>	<b>1,019,988</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	1,199	16,269
為替換算調整勘定	98,984	118,220
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>100,184</b>	<b>134,489</b>
<b>純資産合計</b>	<b>1,124,259</b>	<b>885,498</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,262,658</b>	<b>950,320</b>

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	1,466,063	117,851
売上原価	1,100,041	65,159
売上総利益	366,021	52,692
販売費及び一般管理費	768,442	219,530
営業損失( )	402,421	166,838
営業外収益		
受取利息	2,196	5,317
受取配当金	392	2,070
その他	8,226	1,126
営業外収益合計	10,814	8,515
営業外費用		
支払利息	4,147	-
為替差損	42,880	18,526
持分法による投資損失	-	22,119
その他	468	4,422
営業外費用合計	47,497	45,068
経常損失( )	439,103	203,391
特別利益		
持分変動利益	9,218	-
特別利益合計	9,218	-
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	924	-
特別損失合計	924	-
税金等調整前四半期純損失( )	430,809	203,391
法人税、住民税及び事業税	1,063	1,063
法人税等合計	1,063	1,063
少数株主損益調整前四半期純損失( )	431,873	204,455
少数株主損失( )	129,636	-
四半期純損失( )	302,237	204,455

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	431,873	204,455
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,915	15,069
為替換算調整勘定	23,957	-
持分法適用会社に対する持分相当額	-	19,235
その他の包括利益合計	27,873	34,305
四半期包括利益	404,000	238,760
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	295,922	238,760
少数株主に係る四半期包括利益	108,077	-

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	36,261千円	5,685千円
のれんの償却額	12,417	-

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	グラフィックス 関連	部材関連	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,199,880	266,182	1,466,063	-	1,466,063
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,199,880	266,182	1,466,063	-	1,466,063
セグメント利益又は損失( )	283,194	4,499	278,695	123,725	402,421

- (注)1. セグメント損益の調整額 123,725千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 123,725千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。
2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	グラフィックス 関連	部材関連	計		
売上高					
外部顧客への売上高	82,975	34,876	117,851	-	117,851
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	82,975	34,876	117,851	-	117,851
セグメント利益又は損失( )	56,978	320	56,657	110,181	166,838

- (注)1. セグメント損益の調整額 110,181千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 110,181千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。
2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額	7,338円35銭	4,964円21銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	302,237	204,455
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	302,237	204,455
普通株式の期中平均株式数(株)	41,186	41,186

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

(訴訟)

当社は、平成23年7月20日(訴状送達日：平成23年7月26日)付けで東京地方裁判所において、株式会社ユーエスシーより総額1億7010万円の遊技機器向けグラフィックス「JIGEN-301」の売買代金の請求に係る訴訟を提起されており、現在係争中であります。

当社は、当該売買代金の請求に対する義務はないものと認識しており、株式会社ユーエスシーからの請求については争う方針であります。

なお、株式会社ユーエスシーは、平成23年10月1日付けで合併の効力が発生したことに伴い、株式会社UKCエレクトロニクスが本件訴訟の地位を承継しております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 2月13日

株式会社リアルビジョン  
取締役会 御中

### 監査法人シドー

指定社員 公認会計士 藤田 和重 印  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 政近 克幸 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社リアルビジョンの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社リアルビジョン及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。